

令和5年度（2023年度）

石見さくら会居宅介護支援事業所拠点事業報告

I. 事業総括

要介護状態又は要支援状態にある高齢者自らの意思を尊重し、その有する能力を最大限に活かし、住み慣れたご自宅で可能な限り自立した質の高い生活を営むことができるよう支援致しました。

状態の悪化を予防できるよう医療・福祉の関係機関と連携し、公平・中立の立場で地域に根ざした総合的な支援を致しました。

II. 事業目標に対する評価

1. 利用者サービスの充実

KGI (最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	サービス利用期間 (在宅生活期間)	—	—

利用者一人ひとりの利用登録から各月末日（或いは終了）までの在宅生活期間の算出を行い、登録者全体の平均在宅生活期間（在宅生活期間）は2年10ヶ月でした。（前年度の平均利用期間は2年7か月）

2. 地域社会との関係性強化

KGI (最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	地域ケア会議出席率	—	—

地域ケア会議に於いて医療機関・地域包括支援センター・社会福祉協議会・ケアマネ・サービス提供事業所其々が、専門職の立場から情報の提供を行い、利用者個々の課題から地域課題を見つけ解決に向けて検討を行いました。家族関係を修復する必要性があるケース等、他の専門職と共に更に検討していく必要があると考えております。

3. 生産性の向上

KGI (最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	人時生産性	2.19 千円	2.22 千円
	労働生産性	4,171 千円	4,402 千円

付加価値額は目標値を上回り、生産性指標値もクリア致しました。

Ⅲ. 計画事業の総括

1. サービスの取組み

- ① 要介護状態又は要支援状態にある高齢者が、可能な限りご自宅に於いて、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう配慮し支援を行いました。
- ② 要介護状態又は要支援状態にある高齢者の選択により、心身の状況、その置かれている環境等に応じ適切な保健医療サービス及び福祉サービス、施設サービス等、多様な事業所との連携により、総合的かつ効果的に介護計画が提供できるよう配慮を行いました。
- ③ 要介護状態又は要支援状態にある高齢者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、利用者に提供されるサービス等が特定の種類又は特定のサービス事業者に偏することがないよう公平、中立の立場を保ちました。
- ④ 要介護状態又は要支援状態にある高齢者の要介護認定等に関する申請に対し、本人等の意思を踏まえ必要な支援及び協力を行いました。
- ⑤ 保険者から介護認定調査の委託を受けた場合、公平な調査を行うと共に所要の知識を深めるため常に研鑽に努めました。

2. 人財育成への取組み

計画していた研修はほぼ出席いたしました。事例検討等を行う集合研修に参加することにより「別な視点に立つことによる気づき」が得られました。

3. 地域との関係強化への取組み

地域ケア会議等に参加し、利用者個々のケースを通して医療機関や地域包括支援センターと共に地域の課題の解決策について検討を行いました。

4. 生産性向上への取組み

計画的に効率よくモニタリング訪問を行い、利用者様一人ひとりが、ご自宅での生活がその方らしく継続して行えるよう取組みました。

5. 施設整備への取組み

介護ソフトのリース契約更新他、計画通り実施しました。

令和5年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

【サービス事業】

1. 利用者（入所者）状況

(1) 利用率・稼働率

(単位：人)

	登録定員数	年間延べ人数		利用率
		計画数	請求実績	
介護予防	30	28	29	103.5%
要介護	64	58	52	89.6%
計	94	86	81	94.1%

今年度における施設入所等による終了者は22件で、新規登録者は37件でした。新規登録者数は増えましたが、施設入所等により利用が途中で終了となった方が増えたことで介護保険請求の実績は81件となり計画数を下回りました。

(2) 利用者構成状況

(単位：人)

介護度別	計画数		請求実績		年度末構成割合	
	延べ	年度末	延べ	年度末	延べ	実績
要支援・総合事業	363	28	304	29	33%	36%
要介護1・2	570	39	519	42	55%	52%
要介護3～5	139	19	115	10	12%	12%
計	1072	86	938	81	100%	100%

計画では四半期毎に到達件数を定め、業務に取り組みました。医療機関や地域包括支援センターとの連携、民生委員の方々との情報共有を深めていくが必要と考えております。

2. 実施サービス

(1) 介護保険関係サービス

実施事業の成果、評価	K P I	実績
<p><質の高いケアマネジメントの実施></p> <p>ご自宅で、その方の心身の状況に応じて自立した生活が継続できるよう要介護等が悪化しないよう支援を行いました。ご利用者及びご家族様からのご希望に基づき心身の状態の維持・向上を図ることができるようPDCAのサイクルの下、支援を行いました。年間の要介護認定更新は48件で、その内維持又は改善のあった方は36件あり、目標の改善率を上回ることができました。要介護状態が2段階改善された方や、要介護状態から非該当となり総合事業対象者の状態に改善された方もおられました。</p>	<p>更新時に於ける維持及び改善率</p> <p>70%</p>	<p>更新時に於ける維持及び改善率</p> <p>75%</p>

<p><健康状態の安定> サービス提供事業所と連携し、健康状態が維持できるよう支援を行いました。 骨折による入院がある中、既往症の悪化や合併症による入院が多くありました。転ばない環境づくりと共に普段からの健康状態の把握と早期の対応が必要であると改めて感じました。</p>	<p>登録者数に対する入院者数 2%</p>	<p>登録者数に対する入院者数 2.5%</p>
<p><医療機関等との情報連携> 居宅サービス計画(ケアプラン)作成或いは更新において、利用者が医師の診察を受ける際に同席し、医師等に利用者の心身の状況や生活環境等の必要な情報提供を行うと共に医師等から利用者に関する必要な情報提供を受けた上で、ケアプランに反映させた算定をいたしました。 ・院時情報連携加算 算定 2 件 入院時から退院に備えて必要な準備を整え、退院前に於いては退院後のご自宅での生活不安を解消したりするために医療機関と情報交換など連携し、サービス調整を行い自宅での生活に対する不安を軽減できるよう支援を行いました。 *院時情報連携加算 算定 31 件 *院・退所時情報連携加算 算定 29 件</p>	<p>取得率 100%</p>	

(2) 介護保険外サービス

実施事業の成果、評価	K P I	実績
<p>桃源の家が主催し各地域で実施された認知症予防教室(オレンジカフェ)の開催支援を行いました。</p>	<p>年平均参加者数 10 名</p>	<p>11.1 名 (7 か月分)</p>

3. 人員体制の状況(常勤換算)

(単位:人)

役職名	計画		実績		差異	
	正職	非正職	正職	非正職	正職	非正職
<p>所長(管理者)</p>	1.0	0	1.0	0	1.0	0
<p>介護支援専門員</p>	1.0	0	1.0	0	1.0	0
<p>計</p>	2.0	0	2.0	0	2.0	0

予定通り 2 名体制で運営を行いました。

【人財育成事業】

(1) 事業所外研修 (外部派遣研修)

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
主任ケアマネフォローアップ研修	主任ケアマネ	2名	主任ケアマネとしての資質向上を図りました。
ケアマネジメントに係る研修	ケアマネ	2名	ケアマネとしての資質向上のための学びを深めました。
現認認定調査員研修	ケアマネ	2名	適切な認定調査のための学びを深めました。
障がい者福祉サービスから介護保険への移行に係る研修	ケアマネ	2名	障がい者支援についての理解とサービスへの繁栄について学びました。
重度化及び看取りに係る研修	ケアマネ	2名	在宅での看取りについて学びを深めました。
相談援助技術・対人援助に係る研修	ケアマネ	2名	相談援助技術等についての技法を再認識することができました。
リスクマネジメント研修	管理者	1名	災害や感染症についての危機管理を学びました。
人権・権利擁護(苦情解決)研修	管理者	1名	権利擁護についての理解を深めました。
高齢者虐待防止研修	ケアマネ	—	(定員数により不参加)
メンタルケア研修	ケアマネ	2名	良好なメンタルを維持する方法についての学びを深めました。

(2) 事業所間研修

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
事例検討会	ケアマネ	2名	困難事例を通して、多様な生活スタイルについて学びました。
在宅医療連携に係る研修	ケアマネ	—	(未実施)
多職種連携日課かる研修	ケアマネ	2名	多職種との連携や、地域包括ケアについても学びました。
権利擁護研修	ケアマネ	2名	人権について学びを深めました。
ハラスメント研修	全員	—	(未実施)
接遇研修	全員	—	(未実施)
防災・救急救命に係る研修	全員	1名	外部研修に於いて、安全な対応(事業継続)について学びました。

【地域との関係強化への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等
地域ケア会議	地域ケア会議等への出席を通じて関係機関等と連携の強化を図りました。

【生産性向上への取組み】

(1) 事業規模拡大計画への取組み

介護支援専門員常勤換算一人当たりの実績に基づく請求上限件数を 35 件として取組みました。

(2) 稼働率向上計画への取組み

家族等の協力を得ながら、体調管理や転倒予防を行い、状態の変化が見受けられた場合は早めに受診を行うよう促し入院の長期化及び介護状態等の悪化を防ぎ、在宅生活の維持を図りました。

(3) 新規加算取得への取組み

取得計画	取得実績	実績評価
入院時連携加算	31 件	入院日を含め 3 日以内に病院に対して入院された方の情報の提供を行うよう努め実績を得ました。
退院・退所時連携加算	29 件	入院して居られる利用者に関し、入院中の医療機関に 1 回以上の状態確認を得るよう努めました。
初回加算 介護予防 要介護	14 件 12 件	初めて要介護認定及び介護予防事業の認定を受けられた方、或いは要介護度が 2 段階以上変更となった方についてアセスメントを行い、プランの立案を行いました。
通院時情報連携加算	2 件	利用者様の受診時に付き添い、医師との情報交換を行い、介護計画への反映に繋げました。
予防支援連携加算	14 件	地域包括支援センターとの連携を図り、介護予防対象者となられた方の予防計画の立案を行いました。

【施設整備事業】

実施した施設整備等	実施した内容等
介護ソフトの使用権パックの更新	介護ソフト「ほのぼの」の使用権パックの再リース更新（5 年間）を行いました。
整理棚の購入	利用関係者がパンフレットなどを手に取りやすいように、相談室へ棚を購入し設置しました。

【積立の状況】

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
その他	0	0

【感染症・災害への対応への取組み】

- ・事業継続計画(BCP)について帳票類を含めた見直しを行い、また邑南町より新たに作成された各地区の防災マップを基に利用者宅付近で災害が発生しそうな場所及び避難場所の確認を行いました。
- ・研修及び訓練は、法人内他事業所と共に行う予定にしておりましたが実施できませんでした。

IV. 苦情解決（要望含む）の結果について

令和5年度において、以下の苦情が寄せられ解決を図りました。

苦情事例【1】

発生日	令和5年9月15日
申立人	利用者家族（別居）
苦情内容・要望	■その他 民生委員他不定期に様子を伺っていたが、9/15 ご自宅で亡くなられていた。別居されているご家族より、「訪問時には、本人状態を確認して欲しかった」「関係機関との連携を密にして欲しかった」と受け付ける。
処理結果	ご家族様には、これまでの経緯の説明を行いました。
第三者委員の関与	委員会報告済

以 上

令和5年度（2023年度）ファミリー・サポート・センター拠点事業報告

《石見さくら会さくらんぼクラブ》

I. 事業総括

ファミリー・サポート・センター「石見さくら会さくらんぼクラブ」は、子育て支援センターを拠点とし、子育て支援団体・各機関と連携を図り、地域の子育て家庭が安心して子育てできるよう支援に努めました。

II. 事業目標に対する評価

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	おねがい会員の増員	43%増 (30-21)/21	14%増 (24-21)/21

おねがい会員4名入会により会員数が24名となりましたが、利用増加には繋がりませんでした。

III. 計画事業の総括

1. サービス事業への取組み

地域の子育て家庭を対象に、さくらんぼクラブ事業の周知による会員組織の拡大を図り子育て負担の軽減に努めました。まかせて会員とおねがい会員相互が、ファミリーサポート事業に参加して、子育て家庭が安心して子育てや仕事ができるネットワーク作りの推進に努めました。

2. 人財育成への取組み

行政と連携して研修会を開催し、会員の専門的な知識の向上を図りました。県主催のアドバイザー専門研修会は、調整することが出来ず不参加となりましたが、町主催のファミリーサポート講習や、同じく町主催の専門研修では、まかせて会員と参加し情報収集や専門知識を身につけることが出来ました。

2. 地域との関係強化への取組み

まかせて会員・おねがい会員とその子どもが一堂に会して交流する機会を設け、年2回（9月、3月）開催することが出来ました。わらべうた遊びを通して楽しい交流や意見交換会により、会員同士の親睦や交流を深めることが出来ました。

令和5年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

【サービス事業】

1. 会員登録状況

会員	計画数	実績	差異
おねがい会員	30名	24名	-6
まかせて会員	15名	15名	±0

2. 実施サービス

(1) サービス事業

計画上の事業及び実施した内容・成果等
<p>事業の周知及び会員募集</p> <ul style="list-style-type: none">・年度初めに各保育所の保護者総会に於いて、事業説明と会員募集のチラシ配布等により周知に努めました。また、児童クラブ・小学校・在宅親子・子育てサークルや専門機関と連携して、さくらんぼクラブの活動について説明させていただきチラシ配布の依頼を行いました。会員募集に努め4名の入会に至りました。・子育て支援センターのすくすく便りや石見さくら会の広報誌に、活動内容の掲載をして事業の周知を図りました。
<p>信頼関係の強化</p> <ul style="list-style-type: none">・会員の交流会を2回計画し実施することが出来ました。交流会では、まかせて会員とおねがい会員の参加が多数あり、わらべうた遊びを通して楽しい交流会となり、リラックスして思いを伝え合いながら会員同士の親睦を深めることが出来ました。
<p>人材育成</p> <ul style="list-style-type: none">・邑南町が主催するファミリーサポート講習会に職員とまかせて会員1名が参加しました。安全管理について専門知識を学び、園内研修にて他の職員に周知しました。
<p>助成事業</p> <ul style="list-style-type: none">・おねがい会員の利用率半額助成を実施し子育て家庭の負担軽減を図りました。・自動車保険を導入し、まかせて会員に安心して送迎していただくことが出来ました。

3. 人員体制の状況

アドバイザーは子育て支援センター職員が兼務しております。

【人財育成事業】

事業所外研修

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
ファミリーサポート講習会	保育士	1名	サポートセンターの現状や役割について学び、専門知識の向上に努めました。
会員専門研修（町主催）	保育士	1名	救急法について学び、専門知識を身につけました。

以上